

外部評価結果に基づく改善情報（理学部・理工学研究科（理学系））

改善・向上が必要と確認された事項		対応状況・対応計画	対応完了年月・ 対応完了予定年月	進捗状況
年月	内容			
6.12	ここ5年間の後期日程の入試において、入学者数が募集人数に達しておらず、前期日程の入試の入学者で補充している。後期日程の募集人数の検討が必要と思われる。	適正な充足率実現可能な範囲で募集人員以上の合格者数を出しているが、後期日程での大きな入学率変動が現在の状況の一つの要因になり、結果として指摘事項にあるように前期日程により入学者数を補充している状況になっている。これまでのところ十分な志願者数は確保できており、募集人数は適切なものと考えているが、総合型選抜Ⅰ等を含めた多様な入試方法の実現と適正な募集人員配分の検討を継続的に行い、入学者数の適正化を目指す。	令和7年度	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()
6.12	2年次のコース選定において、今後、特定のコースに人気が集中し、調整が必要な事案が発生する可能性がある。この時の対応について便覧に明示することを今後検討した方が良いと思われる。	学生便覧には、実験・実習・演習科目において、受講者数による履修制限を行う可能性があることを既に記載している。現時点では、コースカリキュラムの選択者数に大きな偏りはなく、想定範囲に収まっている。しかし、将来的には教員数の減少も予想されるため、選択者数を調整する必要性や方法について、今後検討を進めていきたい。	令和6年度	☐ 検討中 ☐ 対応中 ☒ 対応済 ☐ その他 ()
7.1	現時点で改善を要する大きな問題点は見当たらない。強いてあげれば、学部卒業生の就職先へのアンケートにおいて、「専門分野の知識・能力」が活かされていることに対するポイントが低い点が挙げられる。実際には「論理的に考える能力」、「課題発見、解決能力」は教育効果と見なすことができ、また理学という分野において、必ずしも学生が専門分野に合致する就職ができていないためと解釈できる。	「専門分野の知識・能力」に対する具体的認識が大学と就職先とで一致していない可能性が懸念されるため、アンケートの問い方を工夫すべきと考えている。一方、適切なキャリアマッチングを促すための取り組みとして、従来から行っている卒業生・修了生によるキャリア講演会に加え、2023年度には入学後の学びと卒業後の業種・職種との組み合わせの多様性を可視化する「理学部就職図鑑」事業を立ち上げ、2024年度にはインターンシップを履修する前の2年生へ先輩たちの活動を紹介する「インターンシップ報告会」を開催するなどの取り組みも行っている。引き続きこれらの事業を継続・発展させることで、早期の職業観形成を促し適材適所へ人材輩出できる枠組みを強化してまいりたい。	令和7年度以降	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

7. 1	地球共生圏科学専攻の修了率、特に、標準修業年限内の修了率向上に向けた対策をとる必要がある。	毎年、1年間の研究指導計画書の作成を求めているほか、学位論文の作成にあたっては、研究計画の発表および論文計画の提出を行い、指導教員グループがそれらを確認している。しかし、後者は特に時期を定めていないことから、標準修業年限での修了に向けて計画的に取り組めるよう、早期に検討する。	令和7年度	☒ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()
7. 1	専門及び英語教育で、特に、生成A Iをどのように活用して学生の能力を向上させるのかは、貴学部に限らず教育研究面で必要になってくると思われるので常に教員が先端研究のアップデートをして学生に教授していく必要がある。	大学全体としては、生成A I使用の際の留意点に関する指針があり、またそれに関連したFD研修も行われてきている。今後については、既に教育・研究活動で生成A Iを取り入れている教員による事例紹介などを含んだ、より積極的な活用を目指したFD研修等を理学部で行うことを検討している。	令和7年度	☒ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

※年月の欄は、改善・向上が必要と確認された年月を記載する。

※対応状況・対応計画の欄は、進捗状況が「対応済」の場合は対応した内容を記載し、「対応済」以外の場合は予定している対応内容を記載する。

※対応完了年月・対応完了予定年月の欄は、進捗状況が「対応済」の場合は対応が完了した年月を記載し、「対応済」以外の場合は対応完了予定年月を記載する。